


プログラム名	<b>川で遊ぼう</b> ～あんぜんに・たのしく・やさしく～	
実施団体	○団体名：カワラバン ○代表者名：菅原 正徳 ○電話：090-9745-3571 ○FAX：022-739-8814 ○住所：仙台市青葉区中山6丁目1-12 ビューテラスK101 ○E-Mail：contact@kawara-ban.org ※プログラム提案団体：特定非営利活動法人 水・環境ネット東北（平成19年度）	
対象者	幼児 小学生 中学生 高校生 成人	
対象人数	60人まで（フィールドの規模等により異なります） ※人数が多い場合は2班にわけ、本プログラムとゴミ拾いや周辺の自然観察等を交互に行なうことも可能です。	
学習場所	川（広瀬川・名取川・七北田川など）	
学習時間	1時間半（1時間～2時間の範囲で調整可能）	
実施時期	6～10月上旬	
準備物品・費用等 （講師謝金を除く）	実施団体側	ライフジャケット、網、水槽、エアポンプ、救急セット ブルーシート
	利用者側	救急セット、網（ある場合）、ブルーシート（不足した場合） 拡声器（必要な場合）
事前打ち合わせ	実施希望日の2～1ヶ月前と実施直前の2回	
効果的な学習段階	小学生の場合は、1-2年生活、3-4年理科・社会、5-6年理科・社会、3-6年総合の関連項目学習時。または、校外学習などで川を訪れる際の活動として。	
学習概要	1. 学習のねらい	
	(1) 川に入り生き物を捕まえる体験をとおして、川のどこがどのように危険なのかを明確にすることで、危険に対する適応力を高めるとともに、生き物が生きていくうえで必要な環境を知る。 (2) 川に生息する生き物の採取をとおして、地域の環境を知る。 (3) 温暖化が川に及ぼす影響を考える。	
	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
	(1) ライフジャケット着用 ○なぜライフジャケットが必要か？ (2) 川での注意事項 ○川の危険箇所の確認  ○川で活動するときの履物 ○川で活動するときの持ち物	(☆は小学校指導要領より、学習する内容がどの教科に関連するかを表しました。) ・川で活動するときはライフジャケット着用を前提とする ・川のどこがどのように危険なのかを明確にする ・川での活動に適した装備（服装、持ち物）を確認する ☆流れる水のはたらき（5年理科）

## 学習概要

## (3) 魚や水生昆虫の捕まえ方

- 魚や水生昆虫の隠れ家を推測
- 網の使い方
- 捕まえた生き物の扱い方

## (4) 川に入り生き物を捕まえる

- 川の流れを体感する
- 生き物に触れる



## (5) 捕れた生き物を観察する

- 生き物の名称と特徴

## (6) 温暖化が進んだら川の生き物はどうなるか？

- 温暖化が進むことで起こりうる川の生き物を取り巻く環境変化を考える

## 4. 学習のまとめ

- 川で遊ぶ際はライフジャケットを身に着けるなどし、自分自身の安全を確保しなければならない。
- 自然の川は流れの早い場所や深い場所があり、プールのように一定ではない。
- 生き物が生きて行くうえで<エサ><水><隠れ家>は欠くことのできない要素である。
- 温暖化が進めば、川の生き物を取り巻く環境も変化する。

追加・変更できる  
学習内容

- 箱メガネを使った水中観察
- 手作りの測定器を使った流速測定
- バックテストでの簡単な水質検査
- 河原で石を拾い、採取した生き物を描く（ストーンペインティング）
- Eボート体験（10人乗りの組立て式大型カヌー）

事前・事後学習に  
ついての助言

- プログラム「川に学ぼう」とあわせて学習に取り入れるとより効果的です。
- プログラム「大人のための川遊び講座」を引率の方々に受けていただくとより効果的です。

## 雨天時の学習内容

- プログラム「川に学ぼう」を実践している場合は雨天中止
- プログラム「川に学ぼう」を実践していない場合は同プログラムを雨天プログラムとする

- ・生き物の隠れ家を想定したうえで、上手な捕まえ方を考える
- ・捕まえた生き物は弱らせないように扱う

☆生物とその環境（6年生理科）

- ・体験したことは身につく

☆身近な自然の観察（1・2年生生活）

- ・どこにどんな生き物がいたかを共有する

☆生物とその環境（3年生理科）

- ・川や生き物に実際に触れたことで、責任感が生まれる